

高次団粒 SF 緑化システムによるシバを用いた効率的都市緑化法

[要約]

高次団粒 SF 緑化システムで吹き付け面積 m^2 あたりシバマット1枚分のランナーを切断して吹き付け資材に混入して吹き付けることで効率的に緑化ができる。傾斜 60° 以下の人工地盤に厚み5cm以上で吹き付けると生育が安定し、都市空間での新たな需要が期待できる。

農業総合センター園芸研究所

成果区分

行政

1. 背景・ねらい

近年、花と緑は単に装飾の素材だけでなく、都市環境やインテリア環境あるいは社会福祉への貢献など多様化する社会的役割への認識が高まっている。その中で、コンクリート法面、壁面や屋上などの多様化する都市型緑化に対応した緑化が求められている。一方、本県の基幹品目であるシバはバブル崩壊後、需要が低迷している。そこで、シバの需要拡大を図るため、高次団粒 SF 緑化システムを用いたシバによる緑化方法を検討し、都市の人工地盤の効率的な緑化法を開発する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 高次団粒 SF 緑化システムは、吹き付け資材をシステム専用ユニットで混合し、消防車の放水のようにして吹き付け緑化するシステムである(図1)。シバを吹き付けは、ランナーを2~3cmに切断して吹き付け資材に混入する。
- 2) 吹き付け資材に混入するシバの量は m^2 あたりシバのマット(30cm角)1枚分である。
- 3) 人工地盤の傾斜が 90° でも生育はするが、生育中にランナーが浮いてしまい実用性がない(図2)。傾斜 60° 以下であればランナーの浮きが少なく、生育は良好である。
- 4) 吹き付け資材は厚み5cm以上で景観生成が安定する(図3)。
- 5) 吹き付け後9月まで灌水を行い、その後放任状態にしても、吹き付け翌年に萌芽し、景観が維持できた(図3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 高次団粒 SF 緑化システムは全国 SF 緑化工法協会の特許である。
- 2) シバランナーの切断および混入は手作業で行った。
- 3) 人工地盤では適宜灌水する。特に、活着するまでは丁寧に行う。

4. 具体的データ



吹付け資材とシステムユニット



吹き付け作業



ランナー混合作業

図1 高次団粒 SF 緑化システムの施工方法



施工直後（平成 14 年 5 月）



施工 3 ヶ月後（傾斜 90°）



施工 3 ヶ月後（傾斜 30°）

図 2 施工直後と生育状況

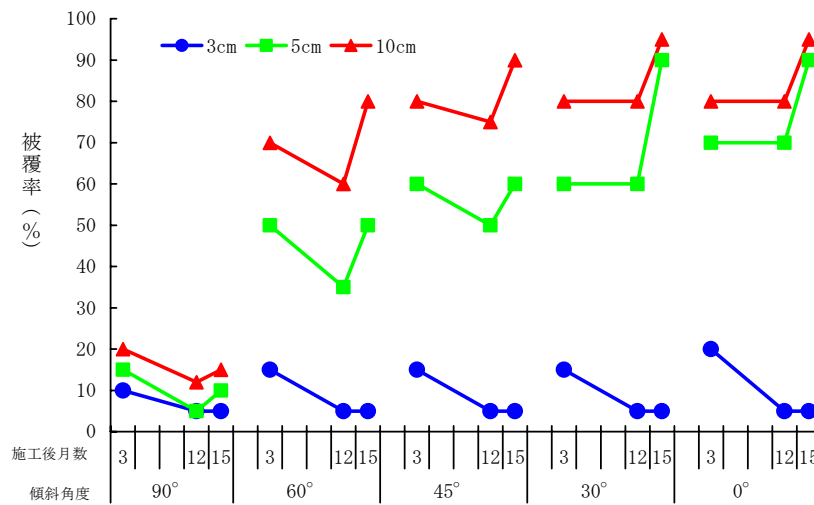


図 3 吹き付けの角度・厚みによる施工後の被覆率の推移

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

都市型緑化に対応した花き類の生育特性と生産技術の開発・平成 13～15 年度・花き研究室